

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価」

(最終評価)

大阪市立今川小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○安心・安全については、令和6年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについては、187件中187件解決できており、解消した割合は100%であった。また、令和6年度の(小学校学力経年調査)・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と回答する児童の割合を90%以上にする目標もおおむね達成できた。不登校児童については、長期にわたって不登校になる児童は4名であり、目標もおおむね達成できた。休みがちの児童が多く、家庭と連携を密に取り、心のケアやサポートを継続していく必要がある。

○学力については、低・中位層の底上げ、また、上位層からの中位層への流出を防ぐことが課題である。そのためには、基礎基本の反復練習(計算・漢字など)や、活用問題に慣れるための時間が必要であり、モジュールタイムで強調週間を設けるなど学力向上に向けた取り組みが必要である。また、専科学習の取り組み方、若手教員の授業力・指導力も児童の学力に直結していることが分析の結果から明らかとなり、研修の内容・深め方に考慮が必要である。さらに、個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実を目指していく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を81%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を68%以上にする。
- ・年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を66%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする)を満たす教員の割合を86%以上にする。
- ・本市調査における「学校図書貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)を50冊以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を67%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする）を満たす教員の割合を85%以上にする。
- ・ 本市調査における「学校図書貸出冊数（児童1人当たりの年間貸出冊数）を50冊以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。

⇒83.5%(昨年度 82.2%)

- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

⇒2.16(昨年度 2.21)

- ・小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

⇒81.9%(昨年度 82.2%)

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

⇒4年 国語-5ポイント(0.99) 算数-8ポイント(0.99)

5年 国語-4ポイント(0.92) 算数-9ポイント(0.85)

6年 国語+6ポイント(0.98) 算数+14ポイント(1.05)

- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を67%以上にする。

⇒68.2%(昨年度 78.3%)

- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

⇒71.5%(昨年度 69.1%)

- ・年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

⇒77.9%(昨年度 78.0%)

- ・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

⇒94.0%(昨年度 94.6%)

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。

⇒今年度1月現在 33.3%(昨年度 21.4%)

- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする)を満たす教員の割合を85%以上にする。

⇒85.2%(昨年度 100%)

- ・本市調査における「学校図書貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)を50冊以上にする。

⇒38.3冊(昨年度 46.4冊)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。⇒83.5%(昨年度 82.2%) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。⇒2.16(昨年度 2.21) ・小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。⇒81.9%(昨年度 82.2%) 	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会や縦割り班活動、今川フェスティバルなど、児童が楽しめる活動を通して、充実した学校生活が送れるようにする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病欠以外の欠席が多い、遅刻が多くなったなどの不登校傾向がみられる児童に対して、対応やマニュアルに基づき担任や養護教諭を中心に早期発見を行い、全教職員が協力し、関係機関等と連携して、初期段階から支援を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、1年後になりたい自分を考え目標を設定する。また、学期ごとに振り返りを行い、目標を達成できるようにする。 ・ゲストティーチャーや出前授業などを積極的に活用し、キャリア教育の充実をはかる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・ 肯定的に回答する児童の割合が、全ての学年が目標の 80% をこえていた。
- ・ 図画工作科の研究を通して、ちがいや良さを認め合ったり、友だちとの関わりの中でアイデアや考えを広げたりしてきたことで「子ども同士のつながり」がより一層深まった。それが安心感や「楽しさ」につながっているのではないか。
- ・ 集会で行っている委員会発表で、低学年が「〇〇委員会に入りたい。楽しそう」など高学年になった時のことを楽しそうに想像している様子があった。将来的に「学校に行くのは楽しい」につながっていくと考える。

取組内容②

- ・ 不登校児童の在籍比率は微減している。
- ・ 不登校児童について、各担当で配慮はしているが、学校でできることには限界がある。
- ・ 初期対応がカギとなるので、担任だけで抱えたり、任せたりせず、学年で共有し、どうしていくかを考えていくことも大切。
- ・ 取組内容①により楽しいと感じる学級、学年（安心できる学級）づくりが体現できつつあり、それがよい影響を与えているのではないか。
- ・ 「心の天気」の徹底を行い、雨や雷が続いているなどの段階で児童に聞き取りをしたり、保護者と共有したりすることで、心因性で欠席する児童への対応を行うことができた。

取組内容③

- ・ 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 81.9%、第 2 回児童アンケートでは 85.3% と目標を上回っているが、80% を下回っている学年もあった。
- ・ ゲストティーチャーや出前授業、地域の人との交流などの機会を増やしたが、第 1 回児童アンケート時（88.8%）よりも減少したため、日々の学級指導の中で取り組むことが必要である。

次年度への改善点

取組内容①

- ・たてわり活動のときだけではなく、学年をまたいだ活動や学習（今年度、6年が1年にタブレットの操作を教える）、取り組みなどを入れてみるのもよいのではないか。
- ・今川パワーアップタイムで「6年生に教えてもらって跳べるようになった」など他学年との関わりを楽しさを感じていたので、休み時間などで他学年と関わる時間があってもいい。
- ・学級経営を充実させ、普段の生活の中でも児童自身が充実感をもって活動できるよう工夫していく。若手の教職員の研修の場が適宜必要。
- ・たてわり班活動をもう少し工夫して、たてのつながりができるようにしていくのもよいのではないか。

取組内容②

- ・不登校傾向がみられる児童を早期発見して学校全体で共有し（スクリーニング会議など）、初期対応を丁寧に行い、家庭・児童のサポートを引き続き徹底していく。
- ・不登校となっている児童に対しては、引き続き関係機関（スクールカウンセラー、区役所）との連携を大切にして対応をしていく。
- ・「不登校＝よくない・減らさないといけない」という見方から、「児童一人ひとりに適した学習環境や方法を提案していく」という考え方にシフトしていくべきなのかもしれない。（市の掲げる最重要目標とは逆行してしまう形にはなるが。）
- ・減らさないといけないが、保護者や児童が今後どうしていきたいかは、それぞれ違うので、「児童一人ひとりに適した学習環境や方法を提案していく」方法で対応していくほうがいい。
- ・絶対に登校しなければならないという型から個人に合った学習へシフトが必要である。

取組内容③

- ・低学年や中学年においてもゲストティーチャーや出前授業などを積極的に活用し、新たな見方や考え方を広げる機会を増やすための取り組みを継続して行う。
- ・キャリアパスポートの活用と併せて、学期ごとに将来の夢や自分がやりたいことを考えたり、選択肢を提示したりする時間を大切にする。また、夢や目標を発表する機会を設ける。
- ・目標に向かってがんばることの価値や目標を達成できた喜びなどの実感を日々の学校生活の中で積み上げ、自己肯定感を高めることで、「なりたい自分」を意識できるようにする。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ⇒4年 国語-5ポイント(0.99) 算数-8ポイント(0.99) 5年 国語-4ポイント(0.92) 算数-9ポイント(0.85) 6年 国語+6ポイント(0.98) 算数+14ポイント(1.05) ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を67%以上にする。⇒68.2%(昨年度78.3%) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。⇒71.5%(昨年度69.1%) ・年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。⇒77.9%(昨年度78.0%) ・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。⇒94.0%(昨年度94.6%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日10分間の今川タイムで基礎基本の学習に取り組み、言語力や計算力の向上をはかる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 	C
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上、外部講師の招聘や出前授業の取り組みを行うことで、児童の興味・関心を高める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する割合を67%以上にする。 	B

<p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、昼休みに講堂を開放し、体を動かす遊びやスポーツをする機会を増やす。 ・固定遊具、用具を使った運動やなわとび・持久走に児童が主体的に取り組む「今川パワーアップタイム」を学期に1回設定する。 ・運動委員会が企画、運営する「今川みんな遊び」を年間3回以上行う。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、健康週間を行い、規則正しい生活を心がけて、生活できるようにする。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時間に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食に関する指導の全体計画」に基づき、各学年、年に2回以上の食に関する指導を行い、食に関する児童の興味・関心を高める。健康教育や給食の時間等で朝ごはんを毎日食べることの大切さに気づくことができるようにする。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日10分間の今川タイムでの学習は、各学年で必要な取り組みを行うことにより、個に合った取り組みができた。 ・個別に指導することはできたが、学習能力の差が大きい。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合が68.2%であり、目標は達成できたといえる。 ・外部講師の招聘や出前授業を計画的に行うことができおり、児童も興味を持って活動に取り組むことができた。 ・理科担当の先生方を中心に児童の興味関心を高める授業づくりの工夫をしてきた成果があらわれた。特に理科補助員の存在が大きく、準備や予備実験が大変な実験も授業の中で行うことができおり、理科の勉強を「楽しい」と感じ、理解度を高める大きな要因となった。 <p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した児童の割合は、3～6年生の平均で71.5%であり、目標の65%を上回った。また、児童アンケート（2回目）における「運動やスポーツをすることは好きだ」の質問に対して、「その通り」と最も肯定的に回答した児童の割合は学校全体で73.5%であり、すべての学年で目標の65%を上回ることができている。 	

- ・「今川パワーアップタイム」をきっかけに普段あまり使わない遊具・用具に積極的に触れたり、寒さに負けず、なわとびや持久走に取り組んだりして体力を向上しようとする様子や、「今川みんな遊び」を通して異学年で交流しながら楽しく体を動かす姿が見られた。
- ・昼休みに講堂を開放することで、運動場とは違った床の感触をはじめ、普段とは違う環境で遊ぶことができる機会をつくり、積極的に体を動かそうとする意欲につなげることができた。
- ・今年度から「今川パワーアップタイム」になわとびと持久走も加わり、より体力の向上を実感する児童を増やすことができたのではないかと考える。

取組内容④

・アンケートの結果は、学校全体として 79.5%とわずかに目標に届かなかった。家族の生活習慣の影響、習いごとによる帰宅時間が遅いことやスマートフォンの普及による生活習慣の乱れによるものと考えられる。また、アンケートの「毎日、同じくらいの時刻に寝て」という文言が、毎日同じ時刻でなければいけないととらえ、肯定的な割合を減少させている原因の一つであるとも推察できる。健康週間の実施により、就寝時刻や起床時刻を意識することができたが、改善にまでは至っていない。

取組内容⑤

・アンケート結果は、学校全体で 95.3%と大幅に目標を上回ることができた。最も肯定的な回答だけで 87.4%あり、目標を上回って達成できていると言える。栄養教諭が中心となり、食に関する指導を計画通りに実施したり、給食委員会が取り組みをしたりすることにより、児童の興味関心を高めることができた。朝食もほとんどの児童が毎日食べることができ、朝食を毎日食べることの大切さに気づくことができている。しかし、約5%の児童が食べることができていない日があるので、継続して指導を行う必要がある。

次年度への改善点

取組内容①

・経年調査や単元テストなどで分析する等して、特に課題のある領域に絞って、学校全体として取り組む強調週間を学期に一度は設ける。また、経年テスト以外で指標について検討する。(単元テストの期待平均点の到達率など)

取組内容②

・高学年(5・6年)は、行事過多になりがちなので、低学年(1～4年)に振り分けしたほうが良いと思われる。

・研究教科でもない「理科」に重点をおいて取り組み、評価しなければならない状況自体に無理がある。可能なら別の項目を設定して取り組みたい。

取組内容③

・学校全体に向けた取り組みとしてはうまく機能し、成果につながっていると言える。しかし、高学年になるほど運動を「好き」という児童と「嫌い」「苦手」という児童の二極化が大きくなっていくのが現状である。高学年の児童に運動を「好き」と思わせるためには、ただ楽しく体を動かすだけではなく、技能の向上を実感させることが必要。自他の成長を実感し、認め合えるような体育科の授業づくりについて研究していきたい。

・自他の成長を実感し、認め合えるような体育科の授業づくりについて研修を行い、全教職員で共有していく。

取組内容④

・就寝時刻や起床時刻は、各家庭の協力も大きく関係するので、家庭との連携や啓発が必要である。保健だよりに規則正しい生活をする必要性を記載したり、学級懇談会などで十分な睡眠時間を取る大切さを知らせたりしていく。また、児童にも規則正しい生活を送ることが健康的な生活を送るうえで大切なことや、不規則な生活になることでの悪影響などを知らせたり、ポスターなどを掲示したりして日々意識できるような取り組みを行う必要がある。

取組内容⑤

・朝食を食べることができていない児童は少ないが、その児童が毎日食べることができるような取り組みをする必要がある。朝食アンケートをとり、その結果から食べることができていない児童へのアプローチを行う。また、食べている児童は多いが、朝食の内容にも注目し、健やかな体の育成に努める。また、朝食については、家庭の協力が必要不可欠なので、食育だよりなどを使って啓発していく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ⇒今年度1月現在 33.3% (昨年度 21.4%) ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準I(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする)を満たす教員の割合を85%以上にする。 ⇒85.2% (昨年度 100%) ・本市調査における「学校図書貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)を50冊以上にする。 ⇒38.3冊 (昨年度 46.4冊) 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の天気」を毎日入れるとともに、各学年に応じて、デジタルドリルやデジタル教科書などを活用し、個別最適な学びや協働的な学びの機会を増やす。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時差出勤の積極的な活用を行うとともに、週に1度以上のゆとりの日を設定し、定時退勤できる日を確保する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準I(1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする)を満たす教員の割合を85%以上にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はぐくみネット事業と連携した学校図書館の充実を推進する。お昼休みの図書館開放や週1回の図書の授業を活用して、本に親しむ機会を増やす。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、児童1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、50冊以上にする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・年間の達成率は、30.6%で目標を下回った。
- ・端末を持ち帰って、連絡帳での連絡などで使用することで利用率が上がるようにしたが、持ち帰りの必要性を感じられている児童も少なく、家での活用も進んでいない。
- ・「心の天気」の入力をするこゝで、児童の様子を確認することはできた。
- ・端末トラブルや端末を忘れていたことが多かった。
- ・10月と12月は目標を達成していることから今後、チェック機能を生かして活用への声かけで、1～3月の活用率の向上は期待できる。
- ・授業中での取組みが限定的な学級が多い。

取組内容②

- ・目標を達成できているが、前年度までいなかった基準Ⅰを超えて勤務している教員がいた。学校行事や保護者対応、授業研究などが重なり、時間外勤務が増えてしまったことが原因であると想定される。
- ・仕事の量や負担に偏りがある。
- ・少数職種の複数配置となったことで、時間外勤務を減らすことができた。今後も、複数配置となるようにしてもらいたい。
- ・ゆとりの日を守って定時退勤したいと思っているが、対応が入ってしまうとなかなか難しい。

取組内容③

- ・朝の読書タイム、国語科の学習での図書室の利用など、各学年や学級で計画的に読書の時間を設定した。昼休みの図書館開放や図書委員会の啓発活動も効果的であった。
- ・はぐくみネット事業と連携し、1～3年生への読み聞かせや図書館開放でのサポートなどを進めた。
- ・総読、外国語の教科化をはじめ、履修させないといけない内容が増えているのに対して、年間の授業時数は減らさないといけないため、図書室を利用したり、ゆっくり読書に取り組んだりする時間をつくるのが難しかった。
- ・現代生活の中で読書以外に児童の興味をひきつけることが多い。
- ・本を忘れて借りられないことが続く児童が一定数見られた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・学校や自宅で端末を利用することの必要性（宿題や調べ学習など）の有効的な利用方法を確立する。
- ・朝の時間にすることに、心の天気を組み込み確実に利用できるようにする。また利用率の高い学校の取組みを参考に効果的な使い方を校内研修などによって広めていく。
- ・タイピングの技能に目標設定を行い、学校・家庭で取り組めるようにする。
- ・学年によっては端末が重く負担になる時もあるので、教科書やノート等、学校に置く教科について学校としてルールを決める。
- ・教職員の活用の広がり、技能向上のために、タブレット端末 classroom の有効活用に対する教職員研修を行う必要がある。
- ・Chromebook に端末が変わり、充電の心配が解消されるので、授業中の活用について積極的に行えるようにしていく。
- ・家庭にも端末を使ってどんなことをするのか、授業やそれ以外の場面とくに家庭での使い方について使用の仕方を広めていく。

取組内容②

- ・働き方改革の目的を再認識することが必要である。働き方改革は、教職員の長時間勤務を改善し、教職員一人ひとりの心身の健康保持増進と、子どもたちに向き合う時間や自己研鑽のための時間を確保することにより、学校教育の質の維持向上を目的としている。このことを踏まえ、削減した時間を有効的に使っていく。
- ・学校内の努力だけでは改善できるものでもないのではないか。人員の増員などが実現できれば、さらに働き方改革が進んでいくと思う。
- ・保護者対応は予期しきれないことであるが、学校行事や授業研究などは時期を変えるなどの工夫を行うことができる。
- ・負担感が偏らないように、うまく分担して、さらに時間外勤務を減らせるようにしていく。
- ・「安心・安全な教育の推進」「未来を切り拓く学力の向上」の実現を目指して取り組むことが結果的に長時間勤務の改善につながる。
- ・放課後等のトラブルでの対応が重なり、退勤時刻が遅くなることがある。放課後のトラブルをどこまで学校が介入するかを考え、保護者にも理解を得られるように啓発が必要。
- ・行事を精選する。校外活動などは場所をなるべく固定して、下見や立案を最小限にすることで、時間外勤務の削減につなげる。
- ・「ゆとりの日」に対応が入った場合は、同一週内に定時退勤ができるよう、各自が臨機応変にできるようにする。

取組内容③

- ・貸出冊数わかるカードを作成し、意欲につながるようにする。
- ・1回に借りることができる冊数を増やす。
- ・図書館開放に1人でも多くの児童が足を運び、本を手に取りやすくなるよう、委員会などで掲示の仕方の工夫をして、イベントの開催などを進める。
- ・年度初めの図書館開放を少しでも早く始められるように、司書の方と進めていく。
- ・読んだ本でクイズを作るなどをする。
- ・高学年は「総合・図書」となっているが、総読も入ってきて、図書の時間確保が難しいため、学年が上がるにつれて学習中に図書室に行くことが難しくなるので、図書館開放を利用するように声かけをする
- ・読書週間（強化週間 or 月間）などを設けて、意識的に本を借りる期間を作ると、指導者側も児童側も本に向き合いやすい。
- ・蔵書点検を3月から夏休みに変更する。